

日本の「脱原発をめざす首長会議」に対する韓国「緑の党」の連帯メッセージ

韓国の「緑の党」は大飯原発の再稼働中止と原発ゼロのエネルギー政策を要求する日本の「脱原発をめざす首長会議」の立場を心から支持します。また韓日両国ともに早い内に核発電所（以下、原発）から脱して安全で平和な、かつ持続可能な社会へ進むように韓国の「緑の党」は日本の首長会議をはじめ、日本のすべての脱原発、ミドリの運動と固く連帯して行く意志を表明します。

私たちは去年の3・11以後、日本の皆さんが経験した苦痛に対して深い悲しみを感じ、どうか慰労の心を伝えようと思いました。また私たちも脱原発を実現させるための具体的な日程を立てて闘わなければならないと決心するようになりました。

韓国は世界中で国土面積当たり原子力発電所密度が一番高い国であり、核技術を過信しすぎており、深刻な事故を隠蔽して、老朽原発の寿命を延ばして、新しい原発を建て、他国に原子炉を輸出するという計画を発表しています。

全国土が一つの都市のように人口密度が高い韓国で核事故が起きたら、その被害の規模ははるかに想像を超えるものとなるでしょう。

私たちは日本の市民が見せてくれている力から希望を感じています。

十数万名の市民が同じ場で一つになり、大勢の市民と地方政治家が連帯して「緑の党」を結成して、今日のように地方自治体が力を合わせて脱原発を要求しているということに大きい感銘を受けています。

韓国の市民も 2030 年 脱核原発という具体的な目標と、これを実現するシナリオを立てながら闘っています。原子力発電所敷地で開いた反原発運動が大都市の市民の脱原発運動へ広まり、韓国政治史で初めて「緑の党」を結成しました。

このような影響を受けて、今年の年末に予定されている大統領選挙に出馬する有力な候補たちが相次いで脱核原発・自然エネルギー政策を発表しています。

ソウル市長が原発を減らすためにエネルギーを節減すると発表して以来、45 の地方自治体が去る 2 月脱原発宣言を発表して、脱原発・エネルギー転換のための首長の集まりを結成して活動を始めました。日本の「脱原発をめざす首長会議」と幾多の市民たちが大飯原発を含めた全国の原発再稼働中止のために争っているように、私たちは寿命を越したゴリ原子力発電所を閉鎖させて、サムチョク、ヨンドクの新規原発建設を中断させ、2030 年まで原発を完全に追い出すでしょう。

この危険であり持続不可能な世界から抜け出すために私たちに必要なのはより広くて堅い連帯です。

韓国の「緑の党」は日本の「脱原発をめざす首長会議」の立場と活動に堅い力支持と連帯を明らかにして、両国の市民と政治家が力を合わせることで、韓日両国と東北アジアの脱原発を実現するという意識を明らかにします。

2012 年 7 月 31 日

韓国「緑の党」

聞合わせ：

June Gyeon Lee, International Secretary, Green Party of Korea june.greenparty@gmail.com,
Ryongkyong Lee, coordinator to Tokyo, Green Party of Korea